



発行：NPO法人とよなか市民環境会議「アジェンダ21」  
編集責任者：奥野 享  
事務局：豊中市環境情報サロン内  
〒561-0804 豊中市曽根南町1-4-3  
Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

### この号のハイライト

P. 1 環境大賞環境市民グループ  
賞受賞/P. 2 自然部会/P. 3 生  
活部会、環境と私/P. 4 環境展  
/P. 5 環境展/P. 6. 花と緑給  
食アンケート/P. 7 とよなか市民環  
境会議/P. 8 企画屋ウォーク

2005年(平成17年)3月号 NO. 10 (通巻第28号)

## 環境展2004を振り返る

昨年12月3、4日  
にわたり開催した「と  
よなか市民環境展」は  
2日間を通しておよそ  
1500人の参加者が  
あり、また出展団体も  
総数49団体に達して  
主催者としてもいちお  
うの成功を収めたと総  
括することができまし  
た。(4~5ページに  
も関連)



**京都議定書が発効する 進めよう温暖化防止**

温室効果ガスの排出削減について先進国の責任を義務化した京都議定書が発効しました。当日京都では市民団体を中心にパレードをはじめいろいろな催しが行われました。パレードにはアジェンダ21も協賛しました。

### 意欲的な新企画で

今回の環境展は、①これまでと違って開催日を金曜、土曜に設定しました。それによって、小中学生の見学を授業の一環として期待し、併せて学習発表の場も設けたことに、最大の特徴があります。

②また、会場の外での活動などにも力を入れ、「環境クーポン券」を発行し地元商店街の賛同者とも連携を強めたり、ペロタクシー(自転車を改造し人力で走るタクシー)の試乗や、燃料電池自動車の試乗で二酸化炭素を排出しない乗り物をアピールしました。

③初めて企画展を設定し、昭和初期からの民具の提供協力者を得て、昔の生活風景を再現しました。

出展団体が増えたので当日の参加者向けに各組織のメッセージをパンフレットにして配るなどの試みも行いました。こうして新しい企画に意欲を燃やして取り組んだ結果、出展団体、会場への来場者ともに、従来と比べ大幅に増やすことができました。(実行委員会のまとめから)

## 第14回地球環境大賞 環境市民グループ賞を受賞

フジサンケイグループの主催する第14回地球環境大賞に市民グループとして私たち「とよなか市民環境会議アジェンダ21」が入賞しました。賞が発表された2月8日の「産経新聞」には次のように受賞説明が書かれています。「地球環境を守る市民行動計画として101項目に及び行動を提案し実践している。'くらし' '自然' '産業' '交通'の各部会による活動のほか、竹炭作りや大学とのタイアップによる啓発事業、学校給食の残渣の堆肥化などに取り組んでいる。活動の到達度を測る指標を設ける検証システムも構築」と、評価されていました。

## 自然ふしぎ発見クラブ「七草をさがそう」

自然ふしぎ発見クラブがスタートしたのが昨年7月。そして早や、開催を重ねて新春のテーマ「春の七草探しと七草がゆ」で第6回目の実施を1月22日（土）に迎えることが出来ました。

当日は、まず環境情報サロン前に展示している立派な七草を、セリ、ナズナ、と順番に、いわれと各七草の性質の説明をした後、いよいよ「豊島公園へ七草探し」のスタートです。

周辺は、すっかり都市化された豊島公園といえどもナズナ、ハコベ、ハハコグサと3種類揃っております。コースを回りながら、それら3種類の「七草」とその他野草、樹木数種類の案内とポイント、ポイントで持参した持ち運びの出来る“携帯ミニ七草”を見て頂きながら、発見クラブ恒例の「ふしぎ発見ク



イズ」です。みんな元気良くハイハイと手を挙げてもらい、和気あいあいとしたひと時でした。是非ニュースレターをお読みの皆さまも一度顔を覗かせてください。

公園での七草観察会のあとは、勝部の橋本さんの田んぼで「とよっぴー」を使って実らせたお米で作った「七草粥」の試食会でした。ごちそうさまでした。

都市化した豊島公園では3種類しか七草がありませんでしたが「春の七草探しと」銘打って七草観察会を実施する価値があると思います。昔の豊中市内は、七草が揃っていました。それがなぜ減ってきたのか？なぜ3種類になってしまったのか？自然環境を考える課題にもなります。（岸田興次）

## 甲賀市間伐体験プログラム「上下流域連携の森づくりの集い」

昨年11月23日秋晴れの日、滋賀県甲賀市のヒノキ林の間伐体験と交流会が行われました。県や市と甲賀愛林クラブ、淡海森林クラブの主催で、とよなか消費者協会、アジェンダ21から40人が参加しました。実は、同じ昨年の5月にアジェンダ21の自然部会は、甲賀町、甲賀愛林クラブの人達にお世話頂き、巻き枯らしによる間伐体験をさせていただきましたが、今回は主催者側から45名も出席され、皆さんの森にかける熱い思いと意気込みが強く感じられた集いでした。

当日午前中は6班に分かれ、なぜ間伐や枝打ちが必要なのか、伐り倒す方向と切り方や、枝打ちはどの高さくらいまで等など教わりながら、大原財産区の18年生ヒノキ林の間伐と枝打ちの体験をさせていただきました。子ども達も数人参加していましたが、鋸を引いたり、足掛け具を使って木に登り、枝打ちをしたりで、本当に楽しそうでした。

昼食には暖かい豚汁や自家製の漬物がふるまわれ、

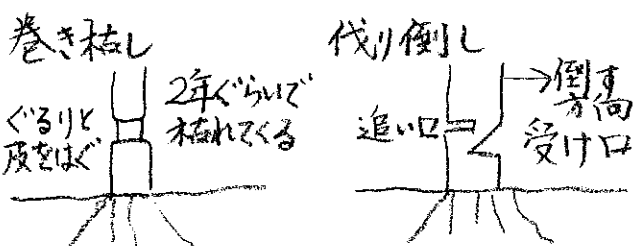


歓談の場となりました。

午後からは、森林ウォーク組とリース用のつる採取組に分かれての活動となりました。

私はつる採取に行きました。あたりのスギ、ヒノキ林は手入れも充分にされて大きくなっていましたが、きつい勾配の斜面もあり、つるの採取も苦労しましたが、それにも増して間伐作業は大変だったろうなと思いました。

今回の森づくりの集いは、日頃森林の恵みを当たり前のこととして受けている下流の私達が、森林に直接関わっている上流の人達と触れ合えて、その苦労の一端をうかがうことが出来た有意義な集いでした。是非これからも継続的なプログラムとして参加の輪を拡げて行けたらと思います。（佐々木忠弘）



# 神戸製鋼に廃プラスチックリサイクルを見学する

## リサイクルの質が悪い？

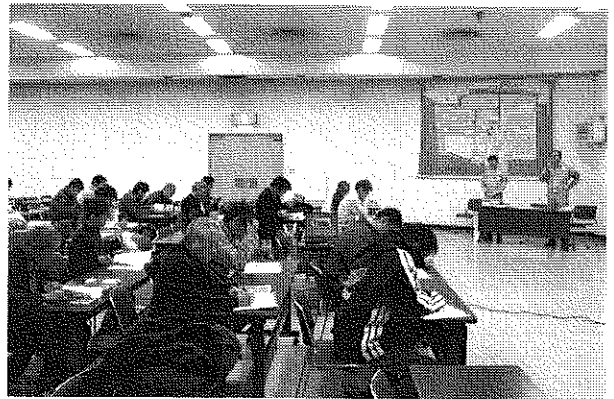
1月26日13時、加古川駅に集合し廃プラスチックリサイクルの現場である神戸製鋼へと向いました。この見学は豊中伊丹クリーンランド労働組合の呼びかけによるもので総勢24人、私たちアジェンダ21からは生活部会を中心に13人の参加です。

廃プラスチックリサイクル、豊中市では20%の市域で実施していますが、回収されたプラスチックの質が悪く再利用のコスト引き上げの話もあると聞いていましたから、リサイクル現場をいちど自分の目で確かめたいと参加しました。

広大な工場敷地は570万平方kmとか、端から端までが優に2kmはあるそうです。プラスチックリサイクルを扱っているのはそのうちのごく一部。まず工場全体の説明と、廃プラをどんな風に再利用しているかの話を聞き、現場を見学しました。

## 前処理は比重による分離

神戸製鋼での廃プラリサイクルは、高炉の還元剤であるコークスに混ぜて利用されます。現在、年間1万トンの廃プラを扱っていて、将来は6万トンまで増やす計画だそうです。でも、コークスとの割合は1%以下のようなのです。集められた廃プラは粉碎し、水に浸けるとポリエチレンなどは比重が小さく、その差を利用し、塩化ビニールなど比重の大きいものを取り除きます。ポリスチレンも比重が大で塩ビといっしょに取り



除されます。金属といっしょになったプラスチック（レトルトの袋など）も比重が大きいので沈みます。

こうして純化したポリエチレンなどはペレットと呼ぶ小さなかたまりに加工されます。コークスと混ぜて高炉に入れたときに、隙間を空気が通るようになるためです。

選別で取り除いた塩ビもむだにはしていません。熱を加えて塩素を分離し、希塩酸を作って鋼板の表面洗浄に使うのだそうです。ゼロエミッションへの細やかな配慮です。

見学し終わって考えたのは、私たちはプラのマークだけを頼りに、まとめてリサイクルに出していましたが、気がつくともマークの下に小さく「PE、M」（ポリエチレンと金属）などの表示があります。それらは

分別方法として説明しきれないリサイクルの現実の難しさを、再認識させられる見学でした。

（奥野享）



## 環境とわたし

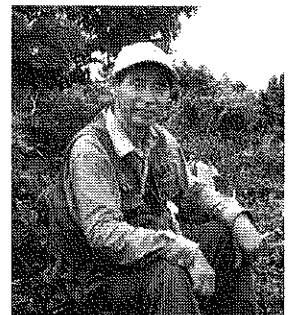
大阪南港野鳥園は1983年の開園です。埋立て地であったところを当時市民運動のおかげで、野鳥園として残った人工の干潟です。春と秋の渡りの季節にシベリアからオーストラリアまで片道1万km以上も旅をするシギやチドリが立ち寄ります。彼等にとってはここが休息と餌の補給のための中継地なのです。ところが春先から一面にアオサが繁茂し、やがて腐って底にへばりつき底生生物に酸素不足をもたらして、餌となるカニ、エビ、貝、ゴカイ等が死んでしまいます。

そこで干潟保全のため夏の間アオサ取りのボランティアを募り私も毎年参加しています。長靴をはいて、取ったアオサをソリに乗せて所定の場所に運びます。

## 三宅史郎さん

（自然部会・竹炭プロジェクト）

ところでシギやチドリには、くちばしが長くて湾曲したり、上に反っているもの、足がすごく長いもの、いわゆる千鳥足のチドリなどいろいろな姿が見られ楽しめます。



人間の都合でひとたび自然環境に手を加えて、自然を保全しなければならないということの両立は難しいことですが、みんなでしっかりフォローすればこのように干潟は守られます。沢山のシギやチドリに安心して立ち寄ってもらえるよう、今後もアオサ取りに参加したいと思っています。

# もよなか市民

## 未来を創る

今回の環境展は、子色でした。事務局は学依頼も行ってきましたは約600人。お手玉自然クラフトも人気のえて人気だったのは、で、一時は子どもたちした。また第1日に地小学校と南淀川小学校ワイワイと元気な子ども発表を熱心に聴き入る子どもたちの展示はりかつてない盛況でした。



### ちんどん屋さんでPR

1日目の昼前から、ちんどん屋さんの団体「てんてこまい座」にお願いし曾根駅周辺でのPRをおこないました。この宣伝は商店街のかたにも喜んでもらうことができ、多様な交流をつくるきっかけにもなりました。

### 「環境クーポン券」も

地元のお店18店舗で「環境クーポン券」での割引協力をいただき、128人の利用がありました。こうした活動は将来のエコマネー（地域通貨）の予行演習にもなる夢のある取り組みでした。

### おそうじ班の活躍

2日目の午後には「クリーン作戦」となづけ、市役所職員と「ゆうの会」からの協力もえて会場から駅前への街路の掃除をおこない、参加者には抽選でリサイクル自転車を提供しました。



おそうじ班が集めたごみは16袋



### ベロタクシーの試乗

「ベロタクシー」というのは自転車と同じ構造で、後ろにおとなが2人乗れる座席がついています。ドイツで開発され、環境にやさしく楽しみながら移動できる新しい乗り物。京都や大阪の難波周辺で営業中。今回は市民会館から曾根駅前までの往復でした。



### 息を切らして自転車発電

ロビーでの自転車発電も大阪のボランティア組織「のろーなくらぶ」による展示。自転車をこいでラジカセを鳴らしたり、おもちゃの電車を走らせたりで大人気。くたびれてくると音が小さくなる。電気エネルギーをつくるしんどさを体験。



### その他いろいろ

おもちゃの病院  
2日目は患者の来院  
乾電池のリサー  
に入っている乾電池  
まま）それを再利用  
示もありました。

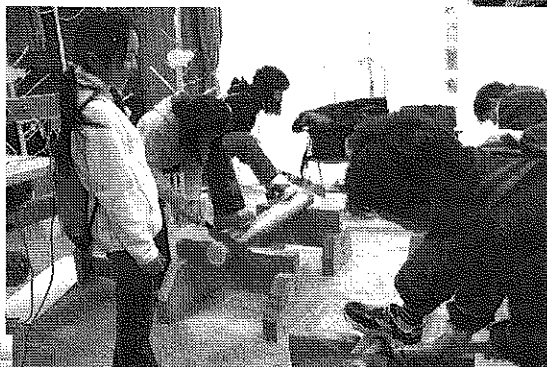
Rびんプロジェクト  
格を統一して再使用  
うという運動）も選  
ごみの減らない現  
してくれました。

# 環境展2004

## 子どもたち

子どもたちの参加が最大の特色に参加を要請し、出展の。当日の子どもたちの参加やけん玉などの昔の遊び、コーナーでした。予想を超甲賀愛林クラブの丸太切りが列を作るほどの賑わいで、は市民会館のホールで、緑の環境学習の発表もあり、もたちもこの時は、仲間の姿がみられました。豊島高校も合わせ6校に上

子ども達の挑戦する姿が頼もしい



### 甲賀愛林クラブの指導で

間伐材の丸太きりに真剣に取り組む児童たち。アクアホールの発表会から見学に来て、集合時間までに順番を勝ち取った貴重な体験でした。



## いろいろ

は去年と比べ、とくに

も大きく大張り切り。イクル(レンズ付フィルム)は十分に電気が残った用しようという珍しい展

クト(ガラスびんの規用できるびんを普及しよう)方から出展してくれて、に積極的な問題提起を

### お手玉で楽しむ

千里川で採ってきた数珠玉を入れたお手玉が数十個、それをつくる材料もあり、針と糸で縫う用意もあります。でも針に糸を通したことの無い子どもには、おとなもびっくり。お手玉の遊び方は有段者の女性が指導。2つ玉で遊ぶことから教わりました。



### 昭和のくらし再現

「昭和のくらしコーナー」では昭和初期のくらしの様子が紹介されました。

氷で冷やす木製の冷蔵庫や井戸水を汲むつるべなども展示されていました。子どもたちはお手玉の遊び方を教えてもらったり、竹とんぼを飛ばしたりして遊んでいました。今から思うとこのような、自然を活用した生活は結果として温暖化を最小限に抑えてきたことになり、当時の人々は生活の中でいろいろと工夫をこらしていました。

### 自然の素材を生かして

甲賀町の山林に入って採取してきたつるに、近くの公園の樹木や草の葉や実などを飾ったリース作りは、環境展での恒例の催しに定着してきている。今年はチョウのプローチと竹材を使ったトンボの置物も加わって、子ども達も熱心に取り組んで、満足げに持ち帰りました。

# 花と緑のネットワークとよなか 小学生の給食アンケート結果 (要旨)

花と緑のネットワークでは昨年7月、豊中市環境部公園みどり推進課と共同で学校給食センター並びに市内小学校の協力を得て「学校給食に関する小学生を対象としたアンケート調査」を実施しました。

これは、子ども達が日ごろ給食にどんな思いを持っているのかを聞くことで、その結果を給食事業に反映できることを期待しながら、「緑と食品のリサイクルプラザ事業」が学校給食の食材残渣と給食の食べ残しを活用して堆肥化(土壌改良材)を行っていることから、この機会に「食の循環」としての地産地消(地場産作物を給食食材に活用することを将来課題にする)を展望して実施したものです。

アンケートに協力していただいた学校は市内13校の34学級で、2年生から6年生までの1,075人に及び膨大な調査となりました。

結果は学年あるいは男女で微妙な反応がありますが、特徴を順次見ますと次のような傾向が現れています。

**食べ残し量** 調査当日は前後の5日間に比較して少ないほうで255トン(平均は311トン)でした。次に当日の給食を全部食べたと答えた子どもは636人で59.2%を占め、約6割の子どもが残さず食べています。この子どものうち、いつも残さず食べるは244人の38.4%、ほとんど残さないが305人の48.0%で、約9割近い数値になっています。いつも残さず食べる子の学年別では3年生が43.9%、ちなみに6年生が一番低く35.7%でした。

残した子どもの特徴では、調査日だけ残した子はわずか15人の3.5%で、この日に残した子は他の給食日でも残すと考えられました。残す理由では好き嫌いがあるが168人の38.1%がトップで、給食の量が多いが147人の33.3%と続いています。食とアレルギーが心配されますが、この回答は23人の5.2%で思ったほどアレルギーが食べ残しの原因でないことがわかりました。食べるのが遅いも103人の23.4%あり、給食時間の工夫も課題であることが判明しました。

さて、給食の人気を聞きますと、パンではバターロールが全体に好評で757人の子どもが好きと答えています。二番人気はさつまいもパンの675人、一方人気は薄いのはいちじくパンで285人でした。ちなみにパンは10種類のメニューがあります。

**大きいおかず** 一番人気があるのがカレーライス

の871人、二番が焼きそばで825人と、ある程度予測のつく反応が出ました。家庭でも一般的に食卓に上る食べ物やはり人気がありました。他方、子どもたちは豆が入っているものは苦手で310人にしか人気がありませんでした。栄養バランスを考慮して献立の工夫がされていますが、三度豆の場合は食べ残しが多いようです。

**小さなおかず** 魚のフライが好評で674人が好きと答え、次にひじきの582人でした。ひじきが好きと答えたことは意外な感じですが、調理工夫が施されて

いることから、子どもに受け入れられているようです。関係者の苦勞がいい結果になっている例ともいえます。

デザートはどうでしょう。ゼリーがダントツで916人の子どもが好きでした。次がフルーツミックスの858人で、嫌いな傾向では味付け小魚は499人と子どもの半分しか人気がありません。これは小骨が喉に刺さるから

でしょうか。いずれにせよ、デザートではびわや甘夏みかんは若干人気がないようです。

**好きなご飯類** 混ぜご飯と白ご飯が拮抗しています。女子は混ぜご飯、男子は白ご飯にわずかですが分かれました。

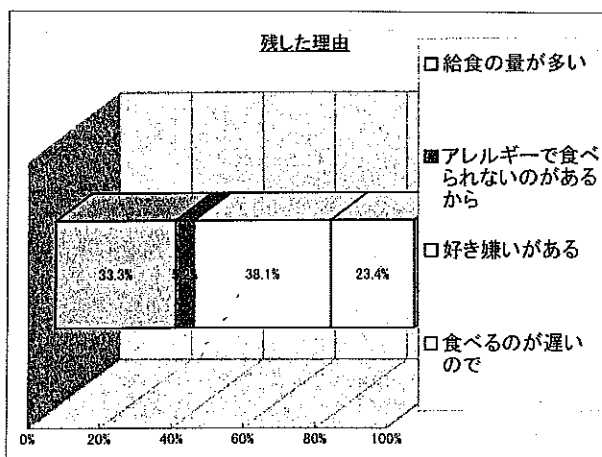
食べ残しを減らすにはどうするか問いには、もっと好きなおかずが339人の33.9%、食べる時間をもう少し長くが390人の33.1%で、健康のためは323人の27.4%とそれぞれの項目に反応がありました。中でも給食時間は前述と同じく課題でしょう。

子どもたちは素直に回答しています。給食は子どもたちに受け入れられていると、この結果から判断できると思います。

日々、給食調理残渣と食べ残しで約1トンが排出されています。これがなくなることが理想ですが、そのためには給食は単にお昼を食べるのではない、ある意味では「食育」の観点を踏まえることと、給食時間における文化性など、楽しく美味しく食べるための工夫が必要かも知れません。

なお、関係者の苦勞もこの調査から理解されました。

花と緑のネットワークとしては市内の農業者の理解もいただきながら、地場産作物が給食の献立に上るよう、資源循環型地域社会の形成の方途として、今後も志向したいと考えています。(中村義世)





## 環境審議会が答申を提出！

市では、「環境基本計画の中間見直し」及び「環境保全条例の改正」について、昨年6月に豊中市環境審議会(会長＝関西大学教授・池田敏雄さん、20人)に諮問し、審議会でパブリックコメントによる市民意見の反映などをしながら審議を重ね、さる3月3日、一色貞輝市長に答申を提出されました。

### 【環境基本計画中間見直しの答申内容】

大きな特徴としては、豊中アジェンダ21の見直しと連携しながら、共有している環境目標についても、これまで数値目標のなかった「協働(パートナーシップ)型活動参加者数」に「環境展参加者数」という数値目標を設定し、関連計画の策定・改訂にあわせて目標数値を修正した点があります。

また、環境問題に対する市民意識は高まっているものの、必ずしも行動に結びついていない状況の中、環境問題を次世代に先送りせず、これまで以上に市民行動計画「豊中アジェンダ21」と協働とパートナーシップのもとで取り組むことを高く位置付けています。

### 【環境保全条例改正の答申内容】

今日的な環境問題への対応を盛り込み、行政手続の公正・明確化を図り、それらを体系的に整備するとともに、総合的・計画的に推進していくべきとの答申でした。

環境基本条例の実施・推進条例という位置付けのもと、多様化する公害問題への対応をはじめ、地球環境や自然環境、生活環境の保全など、具体的な地域の地球温暖化防止計画づくりなどを新たな対象とし、持続可能な社会実現の仕組みづくり、市が保有する環境の各種情報の提供などを盛り込んでいます。

豊中市では、答申に基づき改訂環境基本計画を策定し、豊中アジェンダ21と車の両輪として協働・連携しながら、環境施策の推進を図っていきます。また、環境保全条例については、条例案を議会に諮り、承認後は条例の目的や内容の趣旨等を、事業者や市民のみなさんに、改訂版環境基本計画と併せて、広くご理解・ご協力いただくため、PR・啓発活動に努めていきます。



### 2月26日 ESDとよなか地域ミーティング開催！！

世界・日本の動きにさきがけて、ESDとよなか地域ミーティングが、とよなか国際交流センターで開催されました。参加者約70人は、地域の課題に対する思いを持って集まり、地域の課題解決のために必要な、協働で取り組める具体的なプロジェクトを考え、提案発表しました。発表されたプロジェクトは、「人間ピオトープ」など、ユニークなものが多く、今後、豊中らしいESDをキーワードに、環境・国際交流など分野をこえ、互いに協力しながら勉強会や交流会をとおして、提案されたプロジェクトの実現をめざすことを確認して終わりました。

アジェンダ21からも多くの方が参加されました。今後もさまざまな人と出会い、環境活動を広げていくきっかけになればと思います。

ESD とは？…国連「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development) の10年」



## 歩いて楽しむ千里の丘 企画屋本舗

11月21日(日)朝9時、千里中央セルシー広場に集合。そこから千里中央公園へと歩きはじめました。総勢30人は、まず長谷池では自然部会の岡恒夫さんから、今では想像できないほどに何もなかった開発前の千里地区のようすを聞きました。

「こぼれび通り」に戻り「アダプト」(地域の人が地元の美化活動を行う)の説明が環境部職員からなされ、時間に追われるように千里体育館に行きました。

今回のウォークでは、見るだけでなく歩くことの効用、靴の選び方、肩こりを治すストレッチなど、健康づくり推進課の李さんから講義を受けました。

公園内の散策では、どんぐりを何種類知っていますか? 「こぶし」の名前の由来は? など、次々に知識が広がりました。竹炭焼きプロジェクトの三宅さんからは現物やポスターを用いて活動の説明を聞き、雑木林が竹に侵食される状況を知りました。



最後に「近くにこんなすばらしい公園を再発見し感激です」「竹炭プロジェクトさん、こんどは竹の子掘りを企画しませんか」の感想も。110mの滑り台を滑ったりの楽しい1日でした。(池田一夫)

### 編集室から

▼気象庁の報告、昨年1年間の「平均気温の上昇」と「世界の主な異常気象と気象災害」をメールでもらう。

世界の平均地上気温は観測開始以来98年、02年、03年に続き4番目に高く+0.47度。異常気象もインドや米国など7件がいずれも大きな被害。(Z)

▼今冬の千里川の野鳥や水鳥の飛来が賑やかです。1月下旬、春日橋の北側でカモが13羽もいて、コサギと仲良く遊んでいるかのような光景でした。一昨年、大雨の時に砂地に取り残された3羽のひなのうち、2羽が育ち、今年も戻って来て彼らに出会うのも楽しみになりました。(W)

▼紛争と環境破壊をもたらす「飢餓」。「現代学生百人一首」に「将来の夢は何だと尋ねられ生きていたいとアンゴラの子供」。我が家に1枚アンゴラの子の写真がある。その子は私の息子が幼い頃着ていたのとそっくりの柄のTシャツを着て食事を待っている。(Y)

▼例えばスーパーのレジ袋、ゴミ全体量の1%でしかありません。ではなぜマイバック運動なの? レジ袋

1枚5gを作る為に必要な石油は18.3ml、又焼却すると15gのCO2が発生する。数字は小さくても“もったいない”その意識を皆が持てばCO2は減らせるのに…(N)

▼誘っていただき、子どもを連れて自然部会の水鳥観察会へ。普段は「鳥がいてるね。」で済ますところを、名称や特徴など教えてもらえ、勉強になりました。楽しみながら身近な自然を学ぶ場に、今後も参加したいです。(R)

▼街でマスクをした人を多く見かけます。今年の花粉飛散量は去年の30倍! ヒエーッ! そんな~! なんて~! 助けてーっ! もうやだ! 実は私も花粉症。お花見なんてとんでもない! 出来れば何処にも出掛けず、家の中で過ごしたい。花粉症の方、対策は万全に!(P)

《広報チム》

Z奥野、W岩瀬、Y小村、N三宅、R大和、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>  
Eメール [ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp](mailto:ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp)

### アジェンダにはあなたの居場所があります

ちょっといい豊中見つけに歩く運動(企画屋本舗)/千里中央公園で竹炭を焼いたり(竹炭プロジェクト)/給食の調理くずと街路樹の小枝から堆肥を作り、また家で手軽にできる堆肥作りの講習(花と緑のネットワーク)/環境家計簿をつけて日々の暮らしの省エネを追究(生活部会)/自然観察から自然を守り育て・自然を創り広げる運動(自然部会)/エコドライブから環境に配慮した交通(交通部会)/環境に配慮した事業活動(産業部会)など。連絡はTel 6863-8792 アジェンダ21事務局

